

平成31年度の重点目標

(平成31年度重点目標)

自らめあてを見つけ出す子どもの育成

本校は昨年度、「自己の高まりを自覚する子どもの育成」を重点として取り組んできた。「かしこく」「やさしく」「たくましく」の合い言葉を再認識し、その三つの視点から教育活動の見直しを進めてきた。また「美沢ならではの学び」「広げられる学び」の視点からも、独自性と汎用性のバランスを考えた活動を展開してきた。その結果、ねらいが明確となった教育活動の推進、教職員の指導体制の充実、何よりも子どもの姿の高まりを様々な場面で見ることができるようになった。今後はその定着と活動の充実を図ることが大切である。そのためには、子どもの主体性がポイントと考える。

そこで、本年度の重点目標を「自らめあてを見つけ出す子どもの育成」とし、子どもが成果を自覚することや、取り組み姿勢がより主体的になる活動の充実を進めていく。「めあて」は、まず「今の子どもの姿」と「未来の子どもの姿」を自覚し、方向性が明確になることが必要である。その上で、難易度や時間を考え、スモールステップを意識し、具体的な「めあて」を設定していく。本年度は、子ども自らがそのような「めあて」を見つけ出すことを大切に取り組んでいく。

「めあて」は、6年間を見通した学校教育目標、学級経営方針や年間の目標、さらには学期毎、一単位時間の学習のめあて等様々である。しかし、それらは全て、ほぼ同一の方向を向いている。教師はどのポイントで「めあて」を見つけ出すことが、子どもの成長につながるのかをしっかりと見極め、最も効果的な場面を選ぶことが大切である。

「めあて」を見つけ出す場面では、まず「今の子ども姿」をしっかりととらえさせることが必要である。振り返りをさせたり、日常から働きかけたりして、子どもに自分の姿を理解させる。次に「未来の子どもの姿」をしっかりと意識させるため、子どもに課題を考えさせる、教師自らが模範を示す、他の子のよい点を理解させる等様々な手立ての工夫が大切である。さらに、取組の時間や場に応じた量的なステップも支援することが必要である。

一単位時間の学習であっても、学習のゴールを意識させると、そこにめあてが発生してくる。そのような実践の繰り返しにより、子ども自らがめあてを意識し、高まりのある活動の展開を推進したい。



